AC北九だより

(平成19年第4号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局:北九州市門司区新原町12-27

関 口 興 洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

発行人:大庭常生

編集人:関口興洋・伊藤久次郎

秦野前支部長 本部評議員に選ばれる

支部創立8年目にしての栄誉

日本山岳会北九州支部の秦野一彦前支部長が、この度の本部総会で評議員の1人に選ばれた。創立8 年目の北九州支部にとっては、画期的なことであり、大変名誉なことである。

また、北海道支部の新妻 徹前支部長、信濃支部の中野和郎前支部長、東海支部の寺西申生前支部長 と関西支部の阿部和行前支部長が、それぞれ日本列島南北と中央から評議員に選ばれた。

ごあいさつ

評議員の栄誉は、支部を育てた支部会員に与えられたもの

No.4325 秦 野 一 彦



秦野前支部長

この度、日本山岳会の評議 員に選任され、大変驚いてお ります。

評議員は、理事会の諮問に 答え、会長に対し必要と認めた事項について助 言する等々の立場に置かれているということで

すが、いまだよく理解できておりません。

支部長の任期中は皆様の温かいご協力とご支 援を頂き大過なく終えることができ深く感謝し ておりましたが、突然、吉永常務理事から平成 19・20年度の評議員に推薦しているから了 解してくれという電話をいただき、お断りしま したが押し切られた形になったのか、総会後に 評議員会開催の案内を頂きました。

初の評議員会では、支部長会議で顔見知りの 方々にお会いでき、又会の後の新旧役員・評議 員の懇親・慰労会では大変お世話になった平山 会長にもお会いできました。

この度、評議員に選ばれたということは、私 にではなく、立派な北九州支部に育て上げられ た本会員の皆様に与えられたものであろうと認 識しております。

今後は日本山岳会のために力を尽くしたいと 思っております。

どうか皆様のご協力をお願いいたします。

本部総会の報告

No.13465 大楠 益 弘

総会は、去る5月19日(土) 14:00より、東京四 谷弘済会館で開催された。支部長所用のため私が代理 出席した。以下概略を報告したい。

1 会務報告

18年度退会者221名(物故者、除籍者を含む)、 新入会員141名、復活会員3名、計5,543名が会 員数であり、前年度比92名の減である。

2 自然保護、山岳環境保全

18年度は、全国中央分水嶺踏査の最終年に当た り、4月から9月にかけてこれを実施した。また、

関西支部では四国分水嶺踏査に入ったことが特筆さ れる。

3 一般事業および会員のための事業

12月2日、年次晩餐会を名古屋キャッスルホテ ルにて実施。東京外での開催は初めての試みであっ た。2月には九州五支部懇談会が開催された。海外 活動では学生部のバンバリヒマール、東海支部のロ ーツエ南壁(冬季)遠征が特筆される。

さらに首都圏内支部化の動きとして栃木県、茨城 県、千葉県が支部結成を準備中であり、19年度中 にそれぞれ設立総会を開催する予定となっている。

引き続き19年度・20年度の役員改選があり平山 会長以下役員が退任。新会長宮下秀樹氏(5550)以下新 役員の就任となった。当支部からは秦野前支部長が評 議員に選任された。

(総会での所感)

設立間もないのに、当支部から本部評議員が選任されたのは画期的で栄誉なことである。秦野前支部長のお人柄と指導力に対する評価であろう。役員改選後、平山前会長から退任に際しての挨拶があった。全文が当支部報に紹介されているのでご高覧いただきたい。

平山路線は大塚元会長の大衆化路線を踏襲し、それをなお一層具現化したものであったと思う。挨拶文中若干の項目に触れてみたい。本部会員脱退者のうち除籍者は54名である。この数が多いのか否かについては判断しかねるが、前会長の指摘された「ほとんど無制限に入会させ」たことに起因するのであれば由々しきことである。当支部についてみると平成12年の支部設立に際して公募に応じた会員のうち、大半は本部会員として活動中であり、支部会員として休眠している人数はわずかである。従ってそれ以外の会員は紹介

者による入会であるから、その紹介者が責任を持って 前会長のいわゆる「会員サービス」に努める必要があ ろう。私自身が紹介して入会してもらった会員が数名 辞めている。緊密な交流を怠ったがためと大いに反省 している。

他の山岳団体の状況を見てみると、会員数は、日本山岳協会37,500名余、日本勤労者山岳連盟21,500名余となっている。大衆化路線は時代の要請ではあろうけれども、平山前会長の「経常経費が支払われるような規模」、つまり経常収支のバランスするスケールをあらかじめ設定し活動したらいかがという提言は規模拡大にとらわれ過ぎることへの警鐘でもあろう。私自身かって上記団体のある地区の組織に所属していたが、組織運営上疑念を感じ脱会した経緯がある。さらに指摘のあった会の中枢において会員が利益誘導目的の「商業登山」をすることはもってのほかである。代々受け継がれてきた日本山岳会の品格の保持を常々モットーとすべきであろう。

日本山岳会 平山会長 退任のごあいさつ (全文)

2007年5月19日の通常総会で退任された平山前会長の挨拶全文の転載許可を頂きましたので、 支部会員の皆様にご報告いたします。(事務局)

先人の良き伝統と気風を伝えていく会に

日本山岳会 会長 No.4440 平 山 善 吉

皆さんこんにちは。

今日は平成19年度、第1回総会にご出席いただきありがとうございます。私はこの総会を最後に退任いたしますので、今日は退任に当たり、この4年間を振り返ってご挨拶をさせていただきます。

そこで、この4年間、大過なく過ごすことが出来ましたことは、皆様のご支援、ご協力のおかげであり、まずもってここに厚くお礼を申し上げます。

この4年間の在任中、最も印象に残りますのは、何といっても100周年事業です。私が会長に就任したときには、募金はどうするのか、事業はどうするのかという時でしたが、何とか事業計画がまとまり、登山においては中央分水嶺踏破を始め、学生部のヒマラヤ登山、東海支部の厳冬期ローツエ南壁の他、各支部におきましてもいくつかの登山を行い、それぞれが立派な成果を収めて下さいました。

また、文化事業と致しましては、10年間の準備の末 814頁に及ぶ100年史の刊行を始め、100周年を記念 する英文ジャーナル、新日本山岳史、写真で見る日本山岳会の100年、等の他、図書展を始めとする各種講演会なども開催していただき、これらも皆成功裏に終了することが出来ました。そして、これらの集大成としての式典・祝賀会は、皇太子殿下ご臨席のもと、世界各国の代表者をお招きして、これまた成功裏に終了することが出来ました。

このように、全員参加をモットーに始めた100周年 事業は、皆様の格別のご理解とご協力のもと、とどこお りなく終了することが出来、今、正に感無量でございま す。私は、これらの事業によって本会の絆は更に太く、 強固なものになったと思い、次の100年にむけて確固 たる礎が出来たものと思っております。

これらの詳細につきましては、すでに何度か機会ある度に、会報等を通じて申し上げておりますので、この詳細につきましてはあらためて申し上げませんが、一つだけ申し上げますと、この100周年によってご協力いただきました募金の総額は71,844千円に達し、100周年にかけた総事業費は、105,172千円となりました。

この中で計画にはなかった104号室を100周年記念として購入、改装し、次の時代に残すことが出来ましたことを大変良かったと思っております。そして最終報告は、いまだ若干時間がかかりますが、わずかではございますが剰余金を生み、これを本部会計に組み入れる予定です。この詳細につきましては、本日の議案の中で報告させていただきます。

また、この4年間、私は実行出来るものは実行しようと言っていくつかの改革をしたつもりです。この中で私は、本会会員の半数以上が所属する支部を重視し、学生部登山を奨励し、会員サービスをはかり、公益法人化への道筋をたてることが出来ました。これらについてもその詳細は、その都度会報「山」で申し上げている通りですが、まだまだ改革しなければならない問題は山積しております。

これらの問題につきましては、今年度の理事会において「引継ぎ書」を作成し、これを次期執行部に引継ぐべく来週早々、新理事、新評議員とともに私達の常務理事会は継続の案件について引継ぎをすることにしております。

しかし、本会を取りまく環境は、まだまだ厳しいものがございます。その一つには、「少子高齢化」と「若者の登山離れ」です。このようなことから、いわゆる精鋭的登山は衰退し、会員は高齢化し、併せて会員の減少は顕著です。

例えば、本会の会員数をも見てみますと、1990年代には毎年100から200名の増加を記録し、1989年には4,520名だった会員は、2000年には5,946名となり、2001年には6,007名を数えるに至りました。そしてこれをピークに減少に転じ、この減少は、単純に入会者から退会者と逝去者を加えた数を引いた数としますと、2002年にはマイナス44名、03年、マイナス76名、04年、マイナス93名とつづき、2005年には丁度100名の減少となりました。

これを会費収入の面からみてみますと、退会者に永年会員を加えなければなりません。昨年の年次晩餐会では新たに34名の方が永年会員となられました。このため会費は、1年間、 $(100+34) \times 1$. 2万円=160万8千円の減少となります。そして、この傾向は2002年から始まりましたが今日まで続き、これからは更に増巾して続くものと思われます。

このように、会員の減少に伴う収入減に対しては、いますぐ手をうたなければなりません。ここで本会は今までのように、既存の事業をただ続けるのではなく、大きく方向転換をしなければならないと思うのです。

このため、本会においては今考えなければならない事がいくつかあります。しかし、この問題は、タブー視された問題でありますが、この機会に、日頃からの考えの一端を、私案として申し上げ、皆様のご批判をあおぎたいと思います。

その一つは、クラブライフと会員数の問題です。本会は、会員数の減ることにのみ目をうばわれ、入会者を探し、会員増をはかるため、ほとんど無制限に入会させております。これで良いのでしょうか。今、会の規模は拡大し、活動範囲が広がり、更に拡大しようとしております。この結果、会員のサービスが低下し、入会間もない会員の退会が続いております。クラブとはいろいろの人が集まり多士済々で良いのですが、そこにはおのずからある一定以上の山の知識、経験が問われ、何よりも諸先輩方から受け継がれた品格が必要ではないでしょうか。

そこで私は、経常経費が支払われるような規模の会員 数をきめて、この範囲の会にしたらどうかと提案するも のです。これこそがクラブであり、ここからクラブライ フが生まれるのではないでしょうか。このため会員の減 少を機に今こそ新たな発想を展開すべき時と思います。

次は委員会の問題です。現在委員会は22位あります。 この中味を見てみますと、現在ある委員会は総て本会に 必要なのかどうか疑問です。私にはあまり必要ではない ようなものもあると思われます。いくつかの委員会は、 いわゆる委員会ではなく、同好会で良いのではないので しょうか。このため私は、就任以来委員会の統廃合につ いて提案して参りました。

現在ある委員会の中では、会務をつかさどる総務、財務委員会。会の記録を残し、歴史を伝える山岳、会報、英文ジャーナル。そして資料の収集から、整理などをする図書管理、資料映像委員会などは、本会になくてはならない委員会ですが、この他の委員会は、厳しい財政の中で多額の予算を消費し、これらが本会の発展のために、どのように寄与するのか一度これらを洗いなおしたらどうかと思うのです。

極論かも知れませんが、会員サービスにおいては支部を見習い、また諸活動においては同好会、同期会を見習い、あらためて委員会のあり方を検討すべき時だろうと 思います。

山岳会はよくボランテイアの会、といわれております。 委員会活動も本来はボランテイアであり、受益者負担を 原則とすれば同好会と変わるところはないはずです。現 に今年度の事業計画を見てみますと、委員会の活動より も支部活動のほうがはるかに活発であり、会員サービス においては、同好会、同期会が活発に活動しております。

そして3つ目は、登山を業とする会員の取り扱いです。 昔、私は、先輩から本会は会の中で商売をしてはいけないと教えられました。山登りが多様化した今、本会にも登山を業とする会員もいます。私は、これらの人達に会員としての門戸を閉じるものではありません。しかしこれらの人達が会の中枢において参加者を集め、いわゆる商業登山をすることには反対です。

元来、自分達の山登りを職業にまで拡大した人達は皆

元気のある人達です。時に理事会は、これらの人達を重 用しました。だからと言って会の中枢にある人が商業登 山をするのはいかがでしょうか。これは役員による一種 の利益誘導といわれても仕方ありません。私達は気のつ いたときに、まずもって身の潔癖を示すべきではないか と思っております。

以上、会員数、委員会のあり方、登山を職業とする会員について、日頃きになっていることの一端を申し上げました。私の意見についてぜひご批判をいただきたく思います。

本会は、これからもパイオニアワークを目指し、登山 の文化を築いていかなくてはなりません。世界にはまだ まだ沢山の未踏の頂、未知の地域があります。若者に愛 され、楽しい登山の会として、会員の総てがクラブライフを楽しみ、先人の残した良き伝統と気風を伝えていくような会にしたいと思います。

最後になりましたが、この4年間を総括いたしますと、 意見の違いなどもあり、本会の多士済々ぶりがうかがわ れますが、このような豊富な人材こそ本会のほこりです。

このため、これからの発展には、考え方の違いや物の 見方の違いをのりこえ、多様性を維持しつつ、「抱擁な 心」で団結し、互いに連帯し、素晴らしい本山岳会の建 設に努力しようではありませんか。

長い間大変お世話になりありがとうございました。本 会の更なる発展を願うとともに、皆様のご健勝・ご活躍 を祈念し、私の退任の挨拶といたします。

山のトイレを考えるフォーラム IN 福岡 2007 (参加報告)



山行の最中に何気なく足す「用」も、積もりつもれば環境を破壊する、ということを考えるフォーラムが、6月17日(日)、太宰府市の大宰府館において開催され、約200人が参加しました。

フォーラムは、基調講演とパネルディスカッションの 2部構成で行われ、北九州支部から

伊藤久次郎(13499) 磯野 文雄(13533) 山田 武史(13992) 室津 健次(13986) 西村 一利(13811) 高畠 拓生(13541) 片山 俊昭(13738) 片山 礼子(13739) の8人が参加ましたので、その概要を報告します。

第1部 基調講演

「北海道の山のトイレ問題の現状と課題」 山のトイレを考える会(北海道)

講師 中 俣 善 雄 氏

中俣氏から、北海道における中高年登山者の登山ブームを背景として、①し尿による水質や土壌の汚染、②植物を踏み付けることによる「裸地」の拡大、③排泄物やティッシュの散乱等による環境汚染が顕在化し、これを契機に「山のトイレを考える会」が発足し2000年から活動を始めたとの経緯が説明されました。

No.13533 磯 野 文 雄

続いて、利尻山、美瑛富士避難小屋、空沼岳、黒岳石室、羅臼岳、トムラウシ南沼、幌尻岳の七つの山域での排泄物の処理に係るさまざまな取り組みが紹介されました。特に、利尻山では携帯トイレの普及率を登山者の45%にまで高めていった地元の方々の努力や幌尻岳の日高山脈ファンクラブによる排泄物の担ぎ下ろし(2006年は年1回2日で152kgの担ぎ下し)には頭が下がる思いでした。

中俣氏は今後の課題として、具体的な山域でのトイレ の設置や行政との協働のあり方などを指摘され、基調講 演をまとめられました。

第2部 パネルディスカッション 「各山地からの報告」

コーディネータ 福岡県山岳連盟 西 守 信 二 氏 パ・ 対スト 筑豊山の会 太 田 徹 哉 氏 パ・ 対スト 英彦山霊山会 永 井 直 氏 パ・ 対スト 西鉄山友会 伊 藤 博 紀 氏 パ・ 対スト 福岡県勤労者山岳連盟

東福政次氏

冒頭に、福智山、英彦山、宝満山の各山域のトイレに関する現状報告がなされるとともに、福岡県勤労者山岳連盟の「山のトイレ調査」が各パネリストから報告されました。各氏の報告は、それぞれの山域の特徴や山の個性を反映され、子供が楽しく遊んでいる声を聞きたい(福智山)、霊山においてその山頂にトイレがあるのは不敬(英彦山)、大勢が登山し要望が多い(宝満山)などでした。なかでも、西鉄山友会の伊藤氏の40年に亘る宝満山頂の排泄物の処理の取り組みは、自身が「フン闘」と言われるように、苦心と努力の積み重ねであり、敬意を抱かずにはおれませんでした。

福岡県の山は、長時間におよぶ山行を強いられる登山 は少なく、おおむね登山口にトイレがあれば、行動中に 用(大便)を足す機会はそれほど多くはないのではない でしょうか。バイオトイレの利用の90%が小用であり、 バイオトイレの故障の原因も小用であることから、登山 口までに大便を済ませ、用便を山頂付近に集中させない ために山行中の小休止において小便で済ませることを本 会のマナーとして守っていくことが望まれます。

磯野自身は、犬と登山する機会が多く、糞の処理は次 の手順で行っています。①糞に盛大にトイレットペーパ ーをかぶせる。②ビニール袋に手を入れ、その手でトイ レットペーパーごと糞を包み込むように取り込む。③も う一方の手でクルリとビニール袋を裏返し、つかんだ糞 をビニール袋の中に入れ、袋の口を結ぶ。 (糞は袋の中に 入り手は外へ出る) ④自宅に持ち帰り処理する。というも

のです。これを、自分の大便にも応用しようと、心に決 めました。】

主

山のトイレを考えるフォーラム in 福岡 2007 実行委員会 主催団体

福岡県山岳連盟 福岡県勤労者山岳連盟 九州登山 情報センター 西鉄山友会 九州の原生林をまもる 福岡の会 竈門神社 あだると山の会

共催団体

福岡市山岳協会 九州鉄道山岳連盟 日本山岳会福岡支部 日本山岳会北九州支部

後援団体

九州地方環境事務局(環境省) 太宰府市 太宰府天満宮 西日本鉄道 (株) JR九州 (株) 西日本新聞社

月例山行報告 福岡県雷山 (955m) ~井原山 (983m) 縦走 5/8

ミツバツツジ、新緑を堪能

No.14045 池 田 暁 彦

5月8日(火)福岡県前原市の雷 山(らいざん)--井原山(いわらや ま)を9人(男4、女5)で縦走し た。お目当てのミツバツツジの開花 は期待に背き、満開の花のトンネル とまでは行かなかったが、ブナとコ ナラの新緑と霞んだ玄界灘や佐賀平 野の展望を楽しんだ。

晴天、高温で風がなく、福岡の市 街地など周囲の情景は霞んでいた。 翌日の新聞を見るとこの日は北部九 州で11年ぶりに(中国が発生源らし い) 光化学スモッグ注意報が発令さ れた。そのために展望が遮られたの であろう。

北側玄界灘に向かって東西に長く 翼を広げたように横たわる脊振山地。 その中央やや西寄りに雷山、尾根で 繋がる東側(左)に井原山が見える。 私達は片仮名の"コ"の字を縦にし て右側から肩(雷山)まで登り左肩 (井原山) まで尾根歩き、左下にく だった訳である。

麓から見ると、この山系の最高峰、 脊振山(1055M) は隠れている。「脊 振は一体どこ?」と女性メンバーが 初端に発したのは当然の質問であっ た。井原山頂まで行ってようやく遥 か東南にかすかに見えた。

男組、女組と2台の車で下関、北 九州、福岡の各市から集結。9:30 雷山バス停出発、10:05-10清賀 の滝、10:45-55雷神社上宮、11: 20-30雷山山頂、12:55-14:00 (昼食) 井原山山頂、15:50 井原 山入口バス停(瑞梅寺ダム上)着。 その後も30分程舗装道路を歩いたの で、昼食、休憩などを含めて全コー ス約7時間掛かった。

行程を三つに分けると、

① 雷山バス停から雷山山頂までの 1時間50分は、林道を横切りながら 杉林を抜け、次いで自然林に入った。 清賀の滝や、三つの石祠が並ぶ雷神 社上宮を経て、山頂手前の急坂を登 ると雷山山頂に出た。山頂の景色は 糸島平野、玄界灘、佐賀平野を一望 と言いたい所だが、全体に霞んでいた。

② 雷山山頂-井原山山頂縦走路の 1時間半弱はこの日の白眉で、山田(Lに導かれて自然に足が速くなった。 1000メートルに近い高度だから、



雷山山頂で

重畳たる山々のひだも深く長いため、 下界は遥かかなたである。一山、二 山とアップダウンがある。ミツバツ ツジは脇道に入ったところなどに満 開の幹もあったが、群落として全山 一面をピンクに染めるというほどで はなかった。山田さんは「塩害もあ るでしょう」などと言っていた。や や不振のミツバツツジを援護する積 もりでもなかろうが、陽の光を浴び たブナなど新緑が文字通り広葉樹林 帯(雑木林)の美しさを見せてくれ た。黄緑の若い葉っぱに太陽光が当 たって葉っぱの縁がゆらゆらと光る。

ブナは関東、東北など北国の樹木 だが、この辺のは根元から幹が大き く分かれ、横広のずんぐりした南国 向きの変種で、あまりすっきりしな い。コナラ、カエデのようなのも混 じる。足元の小さな花は、名前を何 度聞いても憶えられない。姿の見え ないウグイスが目と鼻の先の小枝で鳴く。千里鶯鳴いて緑紅に映ず、というのはこういう情景を言うのかなと思った。

③ 井原山頂から瑞梅寺ダム上の駐車場までの1時間50分はダルメキ谷に沿って井原自然歩道をひたすら下った。パーティーの下山開始前(13:40ごろか)に山田CL一人が山頂を発ち、登って来た同じ道を雷山一雷山バス停まで戻って車を取り、瑞梅寺の駐車場に運んで待ってくれることになったのだが、我々がダル

メキ谷を下り切らないうちに「も う、下に来てる」という連絡が関 口さんの携帯にあった。山田さん の足の速さに全員が舌を巻いた。

たっぷり時間があると思っていた我々8人は、途中アンの滝をゆるりと見物「何故片仮名の"アン"などという名前が付いたか?」と無駄話に花を咲かせていた。コンクリートの広い林道に出たところで山田さんの温顔が待っていた。全員が揃ったところで、山田さんの車にもう一台の運転者が乗って

女性組の車を回収に行き、2台が揃ったところで、ダムの少し上の場所で、男女が別々に二つの車に乗り込み、16:20ごろ別れた。

(参加者、9人)

関口 興洋 (13643)

横山 洋子 (13804)

SL 室津 健次 (13986)

CL 山田 武史 (13992)

池田 暁彦 (14045)

高城季美子(14046)

坂本むつみ(北九357)

坂本千佐子(北九379)

室田 安代(北九386)

霊峰英彦山 山開き

ഗ

祭

月例山行報告

5/26, 27

前夜祭 山頂神事 裏英彦山縦走

No.13992 山田武史



JACとFPMC合同による英彦山山開き登山の集合(別所駐車場)

[山開き前夜祭]

平成19年5月26日(土) 19時より、 快晴のもと、第42回となる英彦山 々開き前夜祭が、地元中学生約50 名、一般登山者約100名と共に、我



牧支部会員が持参した天体双眼鏡で 月や土星を眺めて皆びっくり

々JAC北九州支部のメンバー23名の参加により、英彦山麓のキャンプ場広場にて、開催された。最初に、添田町副町長、そして、JAC北九州支部伊藤副支部長の挨拶の後、地元青年団による、踊り、太鼓の芸能と続き、宵闇深まった頃合に、若者扮した修験者の祈祷が通じキャンプファイヤーに火が着いた。愈々、クライマックス。キャンプファイヤーを囲んでの、地元婦人部の人達による炭坑節の踊りに魅入っていると、「一般の方も、踊りに参加して下さい」との司会者の声。私も、JACの面々と共に、



キャンプ場での夕食会

輪に加わって、炭坑節を踊った。なかなか難しい。ちょっと、目を後ろに向けると、中学生のグループが「おして、おして、かついで、かついで」の掛け声と共に、上手に踊っている。地域の文化は、この様な形で、子供達に確実に伝達されている事を実感し、嬉しく思った。

この行事より2時間程、時間は遡りますが、我々JACメンバー19名は、広場下の駐車場にシートを広げ、持ち込んだコンロ4台にて鍋料理。高い陽を受けながら、まず、ビールで乾杯。更に、今回、チーフリーダーを務めている「西村信子さん」は今年還暦を迎えるとの披露あり、関口事務局長より差し入れのワインにて、



英彦山野営場での前夜祭

西村信子さんの還暦を祝して再度の 乾杯。その後、皆夫々に持ち込んだ、 焼酎、日本酒、ブランデー等にて夫 々のグループでの会話も弾んで来た 頃、今回のサブリーダー高畠さんの 司会にて、各自、自己紹介のスピー チを行い、更に、今回参加の19名 の親睦が、一段と深まりました。

話は飛んで、炭坑節の踊りを踊っ て、前夜祭の行事が終了後、我々19 名は、バンガローの1棟に集まり、 狭いスペースの中で、膝付き合わせ ての2次会。添田町事務局の方より、 かっぽ酒の差し入れもあって、又々、 盛り上がったが、明日の早い事もあ り、誰言う事無く、自然に、各自の バンガローに引き上げた。

「山 開 き 神 事 〕

平成19年5月27日(日) 11時より、 英彦山中岳頂上の英彦山神社上宮に て、英彦山山開き神事が行われ、当 日参加の4人を加え、JAC北九州支部 のメンバー23名が参列。神殿への 玉串奉納は、関口事務局長がJAC北九 州支部を代表して行い、又、一般参 拝者を代表しての万歳三唱は、JAC北 九州支部の室津さんが行い、これに て、英彦山々開き神事は、無事終了 した。尚、今朝の行動は、昨夜の影 響多少あるものの、皆、元気にて、 次の通り。

- 起床 06:00
- 07:00 駐車場広場にて朝食
- 08:30 別所駐車場より登山ス タート
- 09:10 奉幣殿
- 中岳頂上着 10:40

そして、神事終了後、全員で南岳 に向かい、南岳頂上にて、快晴のも と、各自持参の弁当にて、お腹と、 心を満たした。

「裏英彦山縦走〕

12:20 南岳にて昼食終了後、ここで、

引き返す数人に挨拶し、又、新た に加わったFPMCの若い人達を含 め、22名にて、裏英彦山縦走を目 指して、南岳の険しい、鎖の続く 岩場の下山道を、慎重に下る。多 数の団体の登山者に合い、道を譲 った事もあり、若干、時間はかか ったが、鬼杉の近くまで下りて来 た。分岐点があり、右に行くと鬼 杉だが、我々は、踏跡の少ない左 の、裏英彦山登山道に入った。

13:10 この分岐点の所で、FPMCの 方で、体調不良の方がおられ、万 全を期して榊さん他1名のサポー トが付いて、3名の方が鬼杉経由 で下山となった故、ここよりの縦 走は19名となった。

西村リーダーを先頭に19名の隊 列は、新緑に囲まれた森閑の中を、 粛々と歩く。西村夫妻、丹下夫妻 以外の人達は始めて歩くルートだ けに、足元への注意と、周りの景 色に心奪われ、どうしても、言葉 は少なくなってしまう。

14:40 「垂水の壺」と言う名所が ある。大きな岩屋のひさしから、 清水が滴り落ちている。今回は、 水量が多いとの事で、この清水を ボトルに入れたり、マグカップで 飲んだりとのどを潤し、一息いれ 直したのでした。

15:00 ケルンの谷にて休憩。ここ までに、いくつもの峠と谷を通過 して来たが、この谷は大きい。小 さなケルンが、いくつも積んであ るが、又、台風が来ると、このケ ルンも流されてしまうのだろうか。 私も、休憩の合間に、ケルンを一 つ積んで来た。

初めてのコースと言うのは、終 点が判らないだけに、ペース配分 も難しく、疲れ方も大きくなると 思う。

時間的にも終点が近いかと思わ れた頃、急な下り坂となって、目 の前で一人、二人、三人と、足を 滑らせて尻餅をつく姿を見ると、必 要以上に慎重になる。若い人達も、 それなりに膝に疲れが来ているのだ ろう。

今回の裏英彦山のコースは、予想 以上にタフな事と、そして、荒らさ れていない自然一杯の、大変良いコ ースでした。

16:00 薬師峠に無事下山した。 ここには、高畠さんと、鬼杉より下 山した榊さんが、車を回送して迎え て呉れておられた。びっくりもしま したが、お二人には感謝です。

又、英彦山におわします神々にも、 お礼申し上げ、報告を終わります。

今回の参加者(32人)

大城戸昌敏(11979)

救急 原 広美 (11990) 伊藤久次郎 (13499)

CL西村 信子 (13520) 高畠 拓生(13541)

SL関口 興洋 (13643) 藤田 傳 (13722)

> 西村 俊二 (13810) 室津 健次(13986)

宮城 尚志(13987)

記録 山田 武史(13992)

康子(北九266) 大木

八木 國子(北九359) 森本 信子(北九389)

榊 俊一(北九397)

平野 一幸 (北九406) 椋本 逸雄(北北410)

牧 寛(北九411)

大内喜代子(ホカ412)

大林 元(FPMC)

寺松 保徳(FPMC)

古賀とみ子(FPMC)

讃井 啓介(FPMC)

当日参加者

内藤 正美(14079) 原野 幸雄(14080) 丹下 洽 (14264) 丹下香代子(北九266) 笠原さわ子(ビジター) 河島さゆみ(FPMC) 志牟田浩之(FPMC) 古江 正臣(FPMC)

龍三(FPMC)

参考 FPMCは、フクオカ ポリス マウンテン クラブの略

本村

月例山行報告 オオヤマレンゲ観賞 6/17

九重山系の山 猟師山・合頭山・黒岩山 ビジターとして 山の魅力にはまりそう!

> 門司山歩会 勉 末 永



黒岩山山頂で

当日は梅雨の真っ只中。どんより 曇って今にも降りそうな空模様の中、 マイクロバスは一路目的地を目指し て走りました。途中は濃霧で一寸先 が見えないほどの悪天候が幸運にも、 目的地九重森林公園へ着く頃は、日 が差す青空で絶好の登山日和となり 感激しました。

早速、救急担当関口様の号令の下、 準備運動を始め、目指す「オオヤマ レンゲ」の観賞へ出発。樹林に入り、

黒土で滑りやすい急坂を登る。

初めて見る純白・可憐な花「オオ ヤマレンゲ」に心から堪能すること が出来ました。

猟師山・合頭山・黒岩山へとミヤ マキリシマが散在し、ツクシドウダ ンも見ることが出来、黒岩山山頂か らは三俣山・中岳・星生山・扇ガ鼻 といった九重山の主役の峰々の姿を 見ることも出来、印象深く心に残り ました。

帰りはホテルでの入浴、汗を流し、 湯上りの冷たいビール・・・・。 マイクロバスの中ではお酒も振舞わ れ、心身共に充実した一日を過ごさ せて頂き、私もすっかり山の魅力に 取り付かされてしまったことを感じ ずにはいられません。

最後に今日の登山に参加する機会 を与えて下さいました日本山岳会北 九州支部副支部長・門司山歩会講

師、大楠先生を始め、当山行を計画 ・実施されましたリーダー並びにサ ブリーダーを勤められた西村夫妻に 心から感謝申し上げ、お礼の言葉と します。

コースタイム

小倉駅北口7:00→おこしかけ8:00→ 道の駅ゆふいん9:10→森林公園スキ 一駐車場10:20→林道11:10→猟師山1 1:36~11:47→分岐12:11→合頭山12: 22~13:00→猟師山登山口13:20→牧 ノ戸峠13:32→黒岩山14:13→牧ノ戸 峠15:02→九重観光ホテル15:15→小 倉19:35

参加者 12人

益弘 (13465) 大楠

CL西村 信子 (13520)

関口 興洋 (13643)

SL西村 俊二 (13810) 池田 暁彦(14045) 大木 康子 (北九266) 勝喜(北九356) 坂太 立石サツミ(北九361) 森本 信子(北九356) 河内 聰(ビジター) 河内三千代(ビジター) 勉(ビジター) 末永

◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

会員異動

支部新会員

北九406 平野 一幸 糟屋郡須惠町 北九407 森 武昭 東京都狛江市 (本部会員 No.9620 北九州支部会友)

北九408 佐伯 近史 下関市王司神田 北九409 池田 智彦 北九州市門司区 北九410 椋本 逸雄 築上郡築上町 北九411 牧 寬 北九州市八幡西区 北九412 大内喜代子 下関市秋根新町

本部会員

No.11585 太田 徹哉 北九州市八幡西区 北九州支部から福岡支部へ転籍

山行中止

6月の山行計画の一つ、「恵那山と上高地ウェストン 祭」は、申込者1名と少なく中止いたしました。

分水嶺踏査座談会 苦労話に花が咲く サロン



6月27日 (水) のサロンでは、普段の倍 (22人)の会員が集まった。それは、日 本山岳会創立 100 周年記念行事で実施さ れた「日本列島中央大分水嶺踏査」に参 加された方々に声をかけ、当時の苦労話 やエビソードを語ってもらい、この話を 「記録集」に残し、後世に伝えていこう との大庭支部長の発案で実施されたもの。

当日は、一杯飲みながらの座談会形式

で、録音機も3台用意して実施したが、メートルが上が るほどに話も熱を帯び、録音機のメーターも振り切れん ばかりであった。

お願い

なお、分水嶺踏査に参加した会員で、この座談会に参 加できなかった方、また参加したが感想を言い損なった 方は、感想や体験などを1人一口文(一行から数百字ま で自由)でお送り下さい。方法は、Eメール、FAX、ハガ キ、手紙・・・など自由です。関口又は伊藤まで。

サロン参加者 (氏名のみ)

大庭常生、篠田勝行、原 広美、大楠益弘、板倉健一、 伊藤久次郎、西村信子、浜松礼子、馬場基介、舛木 隆、 高畠拓生、関口興洋、藤田 傳、西村俊二、室津健次、 中村昭彦、内藤正美、原野幸雄、丹下洽、丹下香代子、 大木康子、牧 寛 計 22 人

委嘱期限近づく 手続きを! 森林保全巡視員の皆さんへ

今年10月末が委嘱期限となっていますので、前もっ て準備する必要があり、

顔写真(3.0×2.2cm)と

承諾書(A4版、別紙3、北九だよりと共に送付) を 7月末までに下記宛へお送り下さい。

送り先 〒800-0025 北九州市門司区柳町1丁目14-19 大楠 益 弘 宛

万が一の時の備えはできていますか!

~スポーツ安全保険~

不幸にして事故が発生した場合は、すべて自己責任と し、当支部では保障は一切いたしかねます。あなたはど の保険に入っていますか。

まだ保険を掛けていない場合は、今すぐスポーツ安全 保険に加入して下さい。ただしこの保険は、日本山岳会 の催事に限りますので、あらかじめご了承下さい。

(保険期間) 4月1日~翌年3月31日(途中加入可)

(保 険 料) 一括払い、年1500円(岩場、 氷雪上を除く)

(補償内容) 死亡 2000 万円 入院月額 4000 円

通院日額 1500円

(ただし4日以上の入通院が対象)

(振 込 先) 郵便振替口座 #1790-3-102242

(ATMで可能)

(加入者名) 日本山岳会北九州支部

(振込連絡先) 振込後は次の担当者まで連絡して下さい。

馬場基介 090-3431-1793

又は、大楠益弘 090-3196-8939

千葉支部発足全国28番目 北九州支部からもお祝い

本年5月27日に栃木支部、6月15日に茨城支部の支 部設立に続いて、千葉支部設立総会が6月24日、千葉 市の京成ホテルで開催され、全国第28番目の支部とし て発足した。人事は次のとおり。

問:平山 善吉(前会長)

芳 賀 孝夫 (元副会長)

支 部 長:篠 崎 仁(前理事、前自然保護委員長)

事務局長:平井 喜久枝(北九州支部会友) なお、北九州支部から大庭支部長名で祝電とお祝いの 焼酎を贈呈しましたのでご報告します。

福岡支部創立50周年記念祝賀会

- ○日時 2007年9月29日 (土) 16:00~20:00
- ○場所 福岡市西日本新聞会館16階国際ホール
- ○記念講演会 中村保氏「ヒマラヤの東」

1934年生まれ。一橋大学山岳部〇B。中国南西 周辺の旅は、28回に及ぶ。著書に「ヒマラヤの東」 三部作がある。2003年、秩父宮記念山岳賞受賞。 日本山岳会英文誌「英文ジャーナル」編集人。

○記念ハイキング 9月30日(日)「万葉の里ハイキング」 四王子山~太宰府政庁跡周辺

(北九州支部は、関口093-382-6436まで)

(社)日本山岳会 第23回全国支部懇談会

宮沢賢治が歩いたイーハトーブの山々を訪ねて

2007年10月6日(土)、7日(日)

会 場 岩手県八幡平市 八幡平ハイツ

参加費 16,000円

10月6日(土)

受付 15時から

講演 16時~17時30分

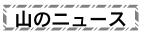
- ○宮沢賢治と山歩き (講師未定)
- ○日本山岳会の今日と明日(日本山岳会会長予定) 懇親会 18時30分~20時30分

10月7日(日)

記念山行〈Aコース 源太ヶ岳~松川温泉、

Bコース 姥倉山〜松川温泉〉

※ 詳細は、会報「山」に掲載します (日本山岳会岩手支部)





(最近の新聞などから抜粋)

森林管理局研究発表会で優秀賞を受賞

日本山岳会「高尾の森づくりの会」が、本年2月6~7 日に行われた関東森林管理局の業務研究発表会で優秀賞を 受賞した。これは、白井總一会員が高尾森林事務所の中島 俊和森林官との共同発表で「高尾小下沢国有林での落葉広 葉樹の森づくり・6年間の活動で判ったこと」と題した研 究を発表した内容が優秀賞に選ばれたもので、見事「社団 法人日本林業技術協会理事長賞」に輝いた。

(日本山岳会ホームページニユース 3月)

大日岳遭難死 国と遺族に和解勧告

2,000年3月5日、旧文部省の登山研修所主催の冬山研修

会に参加した学生ら27人が北アルプスの大日岳(2,501m) 山頂付近で休憩中に雪庇(せっぴ)が崩落。11人が転落、雪崩に巻き込まれた都立大2年の内藤三恭司さん(当時22歳)、と神戸大2年の溝上国秀さん(同20歳)が死亡した裁判で、2人の遺族が、国に約2億800万円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審第1回口頭弁論が2007年3月12日、名古屋高裁で開かれ、裁判長は即日結審し、双方に和解を勧告した。一審富山地裁は、国の過失を認め、約1億6,700万円の支払いを命じている。

(東京新聞 TOKYO Web 3月13日)

北海道積丹岳で雪崩 4人死亡 スノーモービル グループ

北海道の積丹岳(1,255m)の山頂付近をスノーモービルで走っていたグループが18日、雪崩に巻き込まれ4人が死亡した。このグループは、20代~30代を中心にした男性22人がスノーモービル17台と徒歩などで入山し、このうちスノーモービル17人が被害にあった。富山大極東地域研究センターの川田邦夫教授(雪氷学)は、幅100m、長さ400mとみられる雪崩の規模について「大きい部類に入る。スノーモービルの重さ(1台200~300kg)や動き方で、雪崩を誘発した可能性もある」と分析する。

(東京新聞 TOKYO Web 3月19日)

世界初! フォレイカー冬季単独登頂 福岡の栗秋さん成功

米国・アラスカ州第3の高峰フォレイカー (5,304m) に挑んでいた登山家、栗秋さん (福岡市) は、3月10日午後5時 (日本時間11日午前11時) ごろ、登頂に成功した。

1998年3月に北米大陸最高峰マッキンリーに世界で4人目の冬季単独登頂を果たした栗秋さんは、続く目標としてフォレイカーに挑戦したもの。栗秋さんは3度目の登頂だが冬季単独成功は世界で初めて。

(西日本新聞 3月20日)

北アルプス・水晶岳 ヘリ墜落2人死亡

4月9日午後4時20分ごろ、北アルプス・水晶岳(2,986m)にある水晶小屋近く(約2,900m)に、航空運送会社アカギヘリコプター(前橋市)の10人乗りヘリコプターが墜落、乗客2人が死亡、残る8人は山頂近くの水晶小屋に自力で避難し、厳冬と不安に震えながら一夜を過ごし救助された。

(東京新聞 TOKYO Web 4月10日)

9月にトイレ有料化~くじゅう登山道

大分県は5月23日、くじゅう登山道の「久住分かれ」に 設置している公共トイレを9月から有料にすることにした。 維持管理費や環境保全活動への協力金として、1回百円を 利用者に払ってもらう。九州の山では有料化は初めて。

(西日本新聞5月24日)

エベレスト 71 歳登頂 世界最高齢更新

長野県上田市の元中学経論柳沢勝輔さん(71)が、5月22日に世界最高峰のエベレスト(8,850m、中国名チョモランマ)への登頂に成功した。71歳と2カ月2日の登頂で、世界最高齢。(西日本新聞5月30日)

福岡山の会が75周年

全国で最も古い歴史を持つ山岳会の一つ、福岡山の会(緒 方道彦会長、約120人)の創立75周年を祝う記念式典と 祝賀会が6月3日、福岡市内で開かれ、会員やOBら約70 人が参加した。

式典では、75周年に合わせて記念誌「せふり」を発行したことを紹介した。 (西日本新聞6月4日)

築35年で老朽化 福智山「荒宿荘」補修へ

「筑豊山の会」(太田徹哉会長)が、筑豊、北九州地区にまたがる福智山(901m)山頂付近に建設した避難小屋「荒宿荘」が築35年を迎え、老朽化が進む避難小屋を補修するため、浄財を募っている。費用は約百万円かかるとみており、浄財が集まり次第補修に取り掛かるという。 (西日本新聞6月7日)

登山者の遺体 26 年ぶり発見

中国四川省のヒマラヤ東部にあるミニヤコンガ峰(7,55 6m)の中腹で、日本人と見られる遺体が見つかった。手袋や衣類の断片などから、1981年5月に遭難した北海道山岳連盟の登山隊員8人のうちの1人と判明した。

(西日本新聞6月13日)

宝満山「天狗径」通行禁止に 登山道斜面が荒廃

九州百名山に数えられ、年間約30万人の登山者がある福岡県太宰府市、筑紫野市の境の宝満山(829m)の登山道の一つ「天狗径」(てんぐみち)を、登山道と周囲の山林を所有する竈門(かまど)神社が通行禁止にしている。登山道沿いの斜面の荒廃が進んでいるための措置で、立て看板も設置し、登山者に協力を呼びかけている。

(西日本新聞6月14日)

富士山測候所をNPO法人活用

2004年から無人化されている気象庁の富士山測候所の施設を、研究者や登山家でつくる特定非営利活動(NPO法人)「富士山測候所を活用する会」が借り受け、大気観測や希少植物の生態研究に利用することが決まった。同会は、大気汚染物質がアジアなどから飛来する仕組みや、地球温暖化などの観測拠点として生かす方針。

(西日本新聞 6月8日)

大

楠

益

弘

会

員

No.

3 $\frac{3}{6}$

5

西

H

本

新 聞

が

紹

介

山のトイレを考える 7団体が初のフォーラム

登山客の排せつ物などによる自然環境への影響などを 探る「山のトイレを考えるフォーラムin福岡 2007」が 6月17日、太宰府市の太宰府館で開かれた。宝満山、英 彦山、福智山など多くの登山客らでにぎわう県内の山々 のトイレ事情について考えようと、県山岳連盟など7団 体が初開催。登山愛好家ら約200人が集まった。

(西日本新聞6月18日)

富士登頂ピンチ 山開き目前 残雪多く・

富士山の雪解けが例年より遅れ、7月1日の山開きに 4ルートの登山道が全面開通できない可能性が強まって いる。山開きに4ルートが全面開通できないのは残雪や 台風による土砂崩壊で通行止めとなった1997年以来だ という。

毎年、7月1日の夜明けには多くの登山客が山頂を訪 れ、山梨、静岡両県では夏山シーズンの安全を祈願する 神社の神事やイベントが行われる。

(西日本新聞6月24日)

ます渕ダム、堰堤改良工事始まる 福智山登山に通行時間制限

福岡県北九州市土木事務所では、本年2月から平成2 3年3月までの予定で、北九州市小倉南区頂 吉のます 渕ダム堰堤改良工事を始めた。大型のクレーン等を使用 するため、ダム道路を封鎖、または通行を制限すること がある。このダム道路は福智山(七重の滝コース)登山 のアプローチ道路にもなっているため、通行制限時期に ついては、ダム道路入口に設置の看板で予めPRする。 又、平日9時~17時の間、電話での問い合わせにも応 じる。電話093-451-1130

(土木事務所ホームページ 7月5日)

23 2007年(平 北九州版 西日本新南 48-49

と九州・タ

(門司区柳町1丁目) 登 Щ

印象深いのは、中部地方の 登った山は五十を超える。 場内の山岳会に入って、 まな山に登ったが、 わっていない」と話すが、 みたい」との思いから、 七年。 九州から東北までさまざ 「登頂数にはこだ

荘から一番近くにあった 周辺の山々を目指した。 「蓼科山」

繰り返し登るのが好きなん 九州支部メンバーと一 たった」という日本山岳会 上も登った。 「好きな山を、 「あこがれ

齢は六十一 地に遠征する予定です」 の山に登った。 言う。現在、同会の平均年 しい九月に、長野県の上高 福智山や英彦山など、 いる。 生徒有志らと登山グループ 今年四月には、 紅葉が美 若い人も 県内

民センターに登山講座を開

座学のほかに、

「山に登って自然を楽し

歩の進め方などを指導

|動を続けてい いることが西日本新聞の目 5 自宅の門 司地 域 で 般 市 に留まり、 民 0 ため 今回の報道になったもの。 の登山教 室を開 同教室の 生徒らと登山 グループを結成するなど、

『解答』

山の遭難その構図│シリーズ①

No.13465 大楠益弘

『山の遭難 Question 1

未組織登山者事故発生原因の第一位は? 問題1

問題2 組織登山者事故発生原因第一位は?

問題3 事故発生の多い世代は?

問題4 転倒の起こりやすい時間帯は?

問題5 事故発生時期のピークとその場所は?

問題6 転倒時の損傷部位はどの部分が多い?

問題 7 道迷いはどの世代が多い?

問題8 道に迷ったらどうする?

問題9 救援信号で一番効果なものは?

問題10 50歳代を基準としたザックの可搬荷重は何kg? 解答1 道迷い

、罕即

解答2 転倒

解答3 10年前後経験の60歳前後の女性

解答4 視力低下が起こる夕刻

解答5 全行程の4分の3経過前後の樹林帯

解答6 手首、足首、前頭部の順

解答 7 60~64歳の女性

解答8 5分以上現場にとどまり引き返す

解答9 危険を伴うが発煙

解答10 $15 \, \mathrm{kg}$

以上の問題、解答は、青山千彰著「山岳遭難の構図-すべての事故は理由がある」からの引用である。「岳人」 に連載されたものをまとめたもので、出版元の東京新聞 出版局の了解を得たので、関連項目の引用、内容紹介を シリーズで進めてゆきたい。

北アルプス・槍ガ岳の四季

穂刈貞雄・康治 山岳写真展

期日 2007年7月8日(土)~7月22日(日) AM10:00~19:00 会場 北九州市小倉北区室町リバーウオーク5階

「アート&エコスペース」

主催 信州観光センター・北九州、日本山岳会北九州支部

共催 北九州市

後援 アルパインツアーサービス、アミューズトラベル、 サンサン倶楽部、(株) JTB

内容 展示作品 槍ガ岳山荘 穂刈貞雄作品集から8点

穂刈康治作品集から11点 日本山岳会 伊藤久次郎氏の版画作品4点

入場料無料 問い合わせは信州観光センター・北九州 電話・FAX 093-541-0259

山行計画のご案内

9月の山行

島根県鹿足郡吉賀町-高津川水系 裏匹見峡 沢登り(9/8,9)

1. 期 日: 9月8日(土)、9日(日)

2. 交通手段:自家用車

3. 集合場所:下関市一宮町、玉姫殿向い側空地

4. 行 程:

9月8日(土) 15:00 玉姫殿空地出発→裏匹見峡キャンプ場

9月9日(日) 7:30 キャンプ場出発→裏匹見峽往復、 沢の徒渉方法の研修

5.費用:¥1,500(食料費8日夕食、9日朝食は準備、 行動食は各自準備)

現地までの交通費は各自負担

6. 装 備:ハーネス、(沢の徒渉方法の研修に必要です。 各自で準備下さい)

7. 申 込:細川 功(0832-45-3362)

サロン ルーム

毎月第4水曜日

毎回盛況!

7月のサロンは、25日(水) 8月のサロンは、22日(水)

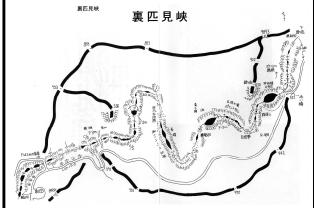
時間 午後6時30分から

場所 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)





10月の山行

日程:2007年10月13日(土)~14日(日)

目的地:阿蘇山

宿泊方法:テント泊(鍋の平キャンプ場)

交通:自家用車(適宜分乗)

行程:10/13日(土)15:00 鍋の平キャンプ場集合(そ

れまでは自由行動)、設営

10/14日(日) キャンプ場~日の尾峠~高岳~中岳

~キャンプ場~高森温泉館

費用:概算2000円(夕食1食分、朝食1食分、乾杯用ビ

-ル充当)。交通費は車ごとに清算。 14日の昼食は各自用意のこと。

入浴:高森温泉館(入浴料400円)

申し込み期限:9月30日(日)まで

申し込み先:関口(TEL/FAX:093-382-6436)

なお、参加者が確定した段階でテント他炊事道具など共同装備、食材につき打ち合わせを行う。

編集後記

○ 個展御礼。5月22日から6月10日 までの3週間、霊峰英彦山のスロー

プカー花駅ギャラリーで「山の版画展」を開催しましたところ、多数の方々にお出で頂き、誠にありがとうございました。又支部からは豪華な花束を頂きました。さらに当番を引き受けて下さった方もご苦労様でした。この欄をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

ついでに個展をして感じましたことは、3週間は長かったこと。毎日愚妻と通いました。往復52キロの道もいつしか慣れて通勤コースとなりました。又期間中、新聞、テレビ、ラジオで報道されたおかげで、山開き以降は客が増え最終日は280人(最少日43人)でした。会期中の合計は1,800人で予想以上の成果でした。版画個展の影響で、ギャラリーの使用申込が急に増え、1年先まで予約が埋まったとのこと。英彦山への客も増え、いくらかでも英彦山に貢献できたかなと、感じているところです。Q

山の原稿は、事務局(関口事務局長)又は 〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。 TEL/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿は、

アドレス rw4ux6@bma. biglobe. ne. jp です。 デジカメ写真は、縮小せず添付で送ってください。